



鶴田町農事普及だより

(9月号 令和8年9月1日～9月30日)

〈発行〉
鶴田町／鶴田町農業振興課
鶴田町農業支援センター
つがるにすぎた農業協同組合
鶴翔統括支店
西北農林水産事務所
農業普及振興室

《ツキノワグマ出没警報発令中！》

- ツキノワグマ出没警報発令中です。
- 農作業は、1人での作業を避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう！

《稲わらは燃やさず、有効利用しましょう！》

- 秋のすき込みで健康的な土づくり！
- 畜産業での有効利用！

《秋の農作業安全運動展開中》

(9月1日～10月31日)

- 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ち歩きましょう。
- 家族や廻りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

爆音機・電子防鳥機の使用について

- 近年、カラス、ムクドリなどの鳥類によるリンゴ、ブドウ等農作物への被害は、生産者にとっては深刻な問題となっております。生産者各自が行う鳥害防止対策として爆音機・電子防鳥機を使用している方もおられます。
- 一方で、爆音機等の使用に関する苦情も役場に寄せられております。
- やむを得ず爆音機等を使用する際は、以下の事項を遵守するよう、お願いいたします。
- ① 使用する期間は、必要最小限とすること。
 - ② 使用時間は午前6時以降から日没までとし、早朝・夜間は使用しないこと。
※ 光センサーでの運転を避け、「入・切」スイッチを手動で行ってください。
 - ③ 周辺住民の生活環境に配慮した音量とすること。
 - ④ 作動間隔を可能な限り長くすること。
 - ⑤ 住宅付近（300メートル以内）で使用しないこと。
(国道・県道沿い100m以内での使用も控えてください。)

《農作物の盗難対策を行いましょう》

昨年度も県内各地で盗難被害が発生しております。被害防止のため5つのポイントに気を付けて対策を行いましょう。

- ① 農作物の保管庫の施錠を徹底しましょう
- ② 園地への侵入防止策をとりましょう
1. 「盗難防止警戒中」「防犯カメラ作動中」の看板等の設置
2. ネットや柵の設置、防犯カメラやライトの設置
- ③ 盗難対策のチラシの共有をしましょう
- ④ 地域で連携して防犯パトロールを実施しましょう
- ⑤ 万が一の盗難被害に対応できる収入保険に加入しましょう

町では、農業用防犯カメラを設置する際の購入費用に対して、補助事業を実施しています。

〈お問い合わせ〉

鶴田町役場 農業振興課 担い手支援係
TEL：0173-22-2111（内291）

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。

鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時
☎22-2111（役場農業振興課）

「農事普及だより」及び「他の農作物生産情報等」は町ホームページにも掲載しております。



(農事普及だより)



(他の農作物生産情報等)

URL <http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ

2026

翔ける未来へ縄文の風に乗って
第80回国民スポーツ大会 第25回全国障害者スポーツ大会



国スポ本大会

2026年10月10日(土)～10月20日(火)

障スポ

2026年10月23日(金)～10月26日(月)

今年は国スポ・障スポの開催により多くの方が来県します。綺麗な環境づくりに努めましょう。

特産果樹

ぶどう

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けよう！

1. 収穫時期の判定
(1) スチューベン
収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度(18度以上)を測定するなどし、十分味がのったものを収穫する。
(2) その他の品種
キャンベル・アーリーは未熟果で糖度が上がらなくてもよく着色する。また、白色品種のナイアガラ、ポートランド及びシャインマスカットは果皮色の変化が少ない。

2. 収穫時の留意事項
(1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。
(2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
(3) 収穫した果実は病害虫の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさと着色程度、品質等により選別する。
3. 病害対策
(1) 灰色かび病
長期貯蔵向けのスチューベンを対象に、フルーッセイバー1,500倍を

外観上から収穫時期を判定するのは難しいため、収穫に当たっては、必ず糖度を測定する。

■ 品種別の収穫時期と収穫時の目安

品 種	平年の収穫時期	収穫時の目安	
		果皮色	糖度(%)
ポ ー ト ラ ン ド	9月上旬	黄 緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫 黒	14
サ ニ ー ル ー ジ ュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ナ イ ア ガ ラ	9月下旬	黄 緑	15
ス チ ュ ー ベ ン	10月上旬	紫 黒	18
シャインマスカット	10月上旬	黄 緑	18

野菜

◆トマト◆

適正なかん水と追肥、保温で、気温の低下に伴う裂果の発生を防ごう！

1. 摘 心
(1) 収穫打ち切り50～60日前を目安に、開花花房の上の2葉を残して一斉に摘心する。
(2) 摘心後、花房上1葉目のわき芽は除去する。2葉目から発生したわき芽は放任し、混んできた適宜、途中から切る。
(3) 収尻腐果の発生防止のため、最終花房のトマトトーン処理後、葉面散布としてカルシウム剤を3～4日おきに2回散布する。
2. 摘心後のかん水と追肥、管理
(1) 裂果発生の軽減のため、かん水は摘心後約30日まで行う。かん水量は1株当たり1.5リットルとし、かん水間隔は1～2日おきとする。
(2) 2本仕立て苗の場合は、1株当たりのかん水量は1本仕立て苗の2倍量とする。

8月下旬～9月上旬に10a当たり250リットル散布する。使用時期は、収穫7日前までである。果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。

- (2) べと病
例年、8月下旬頃から発生が目立つことから、薬剤防除を行うとともに、発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取り、被害落葉も集めて処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

- (3) 追肥が多いと裂果が多くなるため、追肥は最終花房のトマトトーン処理終了後までとする。ただし、肥料不足の場合は、9月中旬以降1～2回追肥を行う。
- (4) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、夜温が15℃を下回る場合は保温に努める。
- (5) 夜間ハウスを閉め切る時期までに、下葉を60cm以上摘葉する(湿度を下げ、灰色かび病の発生低減のため)。

3. エスレル処理

10月中旬以降は気温が急激に低下し着色が進まないため、エスレル10を散布して着色を促進させる。

- ⑤ 散布時や散布後2～3日間、ハウス内の気温を30℃以上にならない。

	散布時期	収穫最盛期	倍数	散布方法
1	9月25日	10月10日	400倍	下段2花房中心
2	10月1日	10月20日	300～400倍	1回目以外の花房

4. 病害虫防除

気温が低下し、湿度が高まることに、灰色かび病、疫病、葉かび病等の発生が増加するので、予防に努める。また、タバコガ類、オンシツコナジラミ、トマトキバガについても防除を行う。

令和8年8月20日
仙台管区気象台発表
東北地方1か月予報より

- 気温…平均気温は高い確率が70%である。
- 降水量…多い確率が40%である。
- 日照時間…平年並の確率が40%である。

ほ場ごとに籾の黄化程度をよく確認し、刈遅れにならないように注意しよう！

1. 出穂状況
西北全体の出穂最盛期は7月31日で、平年より2日早かった。
2. 刈取時期の判断
刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、遅れると茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。本年は特に刈遅れにならないように注意する。
登熟は、ほ場差、地域間差があるので、下の表を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。
(1) 出穂後積算気温からみた刈取時期の予想（8月18日現在）
主な品種ごとの出穂後積算気温でみた刈取適期の予想は、下表のとおり。
なお、この予想適期はあくまで目安であり、刈取りはほ場の状況を見ながら総合的に判断する。

町農業委員会では、年3回農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。
農地の賃借や売買については、町農業委員会へご相談ください。



- (3) 土壌酸度がpH6.0以下では生育が悪くなるため、土壌診断に基づいて石灰資材を施用し、矯正する。
 2. 施肥
基肥は成分量で、10a当たり窒素7～8kg、リン酸12～15kg、カリ9～10kgを基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。
 3. 種子消毒
紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、キンセツト水和剤80（乾粉衣又は湿粉衣）などで種子消毒を行う。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。
 4. は種期
は種適期は9月第4～5半旬であり、は種量はトリル播きで10a当たり8～10kgとする。なお、は種時期が9月末以降にずれ込む場合は、は種量を2kg/10a程度増やす。
 5. 雑草防除
(1) 耕起前または耕起からは種までの期間が空き、雑草の生育が進んでいる場合、非選択性除草剤により防除する。
(2) は種後～発芽前に、必ず土壌処理剤を散布する。なお、使用前には必ず最新の農薬登録情報により使用方法及び使用基準を確認する。
- りんご
- 果実の着色や食味を確認し、十分味をのせて適期に収穫しよう！
- ふじの肥大（県生育観測ほ：板柳町五幾形）は、8月21日現在、横径8.0cmで平年（7.4cm）より大きい（平年比108%）。

(2) ほ場ごとの刈取開始期の目安

籾の黄化程度
①「まっしぐら」、「はれわたり」 ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期 ②「青天の霹靂」 ほ場全体の籾が、85%程度黄化した時期
枝梗の黄化程度
枝梗の2/3程度が黄化した時期
青未熟粒の混入割合
青未熟粒の混入率（1.9mm選別、重量比）が、10%程度まで減少した時期
籾水分
25～26%程度まで減少した時期

市町別の出穂状況

市町名	出穂始		出穂最盛期		出穂終	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
五所川原市	7月27日	7月30日	8月1日	8月3日	8月5日	8月6日
中泊町	7月27日	7月30日	8月1日	8月2日	8月7日	8月6日
板柳町	7月29日	8月1日	8月1日	8月3日	8月6日	8月7日
鶴田町	7月28日	7月31日	7月31日	8月3日	8月5日	8月6日
つがる市	7月27日	7月30日	7月31日	8月2日	8月3日	8月5日
鰯ヶ沢町	7月26日	7月29日	7月30日	8月1日	8月2日	8月5日
深浦町	7月26日	7月30日	7月30日	8月2日	8月3日	8月7日
西北全体	7月27日	7月30日	7月31日	8月2日	8月5日	8月6日

③ 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%の面積が出穂期に達した月日である。

出穂後積算気温からみた刈取適期の期間

まっしぐら	出穂後積算気温で960～1,200℃
はれわたり	出穂後積算気温で970～1,300℃
青天の霹靂	出穂後積算気温で900～1,100℃

注1）出穂後積算気温
出穂期の翌日からの毎日の平均気温を合計した値
注2）出穂期
ほ場全体の40～50%が出穂した日

出穂後積算気温でみた「まっしぐら」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,200℃到達予想日
7月27日	9月7日	9月16日
8月1日	9月12日	9月24日
8月5日	9月17日	9月29日

出穂後積算気温でみた「はれわたり」刈取適期の予想

出穂期	970℃到達予想日	1,300℃到達予想日
7月27日	9月7日	9月23日
8月1日	9月13日	9月30日
8月5日	9月17日	10月6日

出穂後積算気温でみた「青天の霹靂」刈取適期の予想

出穂期	900℃到達予想日	1,100℃到達予想日
7月27日	9月4日	9月12日
8月1日	9月9日	9月18日
8月5日	9月14日	9月23日

④ 五所川原アメダス値を使用し、8月17日までは本年値、それ以降は平年値を用いて算出。

排水対策、病害虫防除をしっかり行い、収量・品質を確保しよう！

- ◆大豆◆
 1. 排水対策
(1) ほ場の滞水で収穫作業に支障が生じないよう、溝切りなどの排水対策を行う。
 - (2) 明きよの状態を確認し、必要に応じ

て補修を行う。

2. 病害虫防除

- (1) 紫斑病、マメシンクイガの防除をまだ行っていない場合は、9月上旬までに行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜き取りを収穫前までに行う。

◆小麦◆

排水対策や土壌改良をしっかり行い、生育を確保しよう！

1. ほ場の準備
(1) 転作田では、雪解けが早く排水が良いため、ほ場を選び、明きよや弾丸暗きよ等を施工し、排水対策を行う。
- (2) は種精度、出芽率及び除草剤の効果を上させるため、碎土と整地をていねいに行う。

1. つがるの収穫
(1) りんご研究所による「つがる」の熟度調査（8月20日現在）によると、平年値と比較して、糖度、ヨード反応および着色指数は同程度、硬度はやや低く、酸度は低い。総合的にみると熟度は平年並と見込まれる。
(2) 収穫が遅れると軟質化するなど品質低下につながるため、着色程度より果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。
(3) 熟期が揃わないので、着色、地色、硬さなどを見て2～3回に分けて収穫する。
(4) 収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、速やかに冷蔵施設に搬入する。
(5) ストッパール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。
2. 中・晩生種の管理
(1) 「樹上選果」の徹底
着果量の多い園地では、収穫時まで随時、病害虫被害果、鳥害果、日焼け果などの障害果を摘み取る。病害虫被害果は土に埋めるなど、適切に処分する。
(2) 着色手入れ
早くからの強い葉摘みは、鮮明な色が着かないばかりか食味の低下につながるため、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。
(3) 除袋時の注意
着色ムラをなくすために、外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。
日やけを出さないため、二度はぎ用二重袋をかけたものは、まず外袋をはぎ、果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時（晴れた日が3～5日続いた後）に内袋をはぐ。は

3. トキの適期収穫
早もぎにより食味の劣る果実が出回り、市場評価を落とした事例があることから、早もぎせず、しっかり味をのせて適期に収穫する。
(1) 平年の収穫始めは9月30日頃である。
(2) 熟期が揃わないので、3回程度のすぐりもぎを行う。その場合は、1回目の収穫は表面色指数※3～5の果実が全体の半量程度に達したら行い、指数4以上の果実を収穫する。2回目以降は表面色指数4に達した果実を速やかに収穫する。
(3) 表面色指数5以上の果実は、食味は良いが、貯蔵中に軟質化する場合があるので即売向けとする。
(4) 収穫後は、速やかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。
 4. 病害虫防除
(1) すず斑病・すず点病
例年発生が多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に、9月15日頃にオーソサイド水和剤800倍、又はストライド顆粒水和剤1,500倍のいずれかを果実に十分にかかるとに特別散布する。
(2) 黒星病及び褐斑病
二次感染や翌年の感染を防ぐために、随時、発病葉・発病果は見つけ次第摘み取り、適正に処分する。
- ※表面色指数
りんご黄色品種青森県標準カラーチャート（青森県りんご協会発行）の指数。

■ 平年の実施時期（着色手入れ）

品 種	除袋時期	着色手入れ
早 生 ふ じ	—	9月10日～10月1日
紅 玉	—	9月15日～9月30日
シ ナ ノ ス イ ー ト	—	9月20日～10月5日
ジョナゴールド（有袋）	9月15日～9月25日	9月25日～10月5日
ジョナゴールド（無袋）	—	9月20日～10月10日
陸 奥	9月25日～10月5日	10月5日～10月10日
ふ じ（有袋）	9月20日～10月5日	10月5日～10月25日
ふ じ（無袋）	—	9月25日～10月25日

- (3) シンクイムシ類
被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上水漬けなど適切に処分する。園地に放置すると次世代の発生源となるため必ず処分する。また、もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。
- (4) リンゴコカクモンハマキ
発生が多いところでは、適期（9月上旬～中旬）にジアミド剤又はスピノシン剤を散布する。また、果実に接触している葉を摘み取り、果実被害の軽減に努める。